



撮影 / 清水

さあ、新しい公共交通の時代を拓こう！
～平成26年度総会も開催～



関連記事
2 / 4 ページ

活動報告

- 5月21日 ROBA 理事会・例会
- 24日 定例総会・記念講演「小嶋光信氏」
- 6月6日 カーフリーデー・ジャパン説明会
10日
福井県健康バイロロジー推進協議会総会
- 10日 CFD打ち合わせ（片町）
- 18日 ROBA 6月例会・理事会

今後の予定

- 6月19日（木） えちぜん鉄道 株主総会
- 23日（月） 福井鉄道 株主総会
- 26日（木） つながるっさ交歓会（ふく+）
- 28日（土） 鯖江市環境フェア2014
- 7月13日（日） エコカレッジ・NPOの紹介
- 16日（水） ROBA 7月例会・理事会
- 25日（金）～26日（土） JCOMM会議
- 26日（土）～27日（日）

中部地区路面電車サミット（高岡市）

ゆうじんの部屋 書籍紹介

持続可能な交通への経済的アプローチ

兒山 真也 日本評論社 4600円+税

宇沢弘文の「自動車の社会的費用」が日本では自動車の外部コスト論の草分けだが、上岡直見の「自動車にいくらかかっているか」を合わせて私は2大作だと思っている。この本は、その後の環境コストの計算方法（CVMなど）の進歩などを踏まえ、特に人命の価値などをどうクルマの社会的費用として評価するかなどをまとめた本である。クルマの社会的コストを浮き立たせる本でありながら、その理論を発展させてきたのは道路を作る側の費用便益分析であることが面白く感じられた。

なお、この本では、走行に比例する税をかけることが最良の方法であることを認めつつ、それが政治的に難しいときの自動車保有税、保有権のオークションなどが、経済にどのような影響を与えるのかなども論評しており、道路や公共交通政策を仕事で扱う人や、道路政策にひとこと言いたい方には是非読んで頂きたい。

東海市会員 美濃部 雄人 Minobe Yujin

26年度ROBA定例総会を終えて

ROBA会長 内田佳次

本年も定例総会を終了することができました。2001年2月に設立総会を開催してから数えて14回目の総会となります。自慢できることは毎年必ず総会を開催し、過ぎ去った1年を総括し、次の目標を立てていることです。

「NPOであれば当然でしょう」とお思いでしょうが、意外とこれできていないようです。また、毎月の例会・理事会の開催もすっかり定着しています。これまで開催しなかったのは、定足数に満たず正式開催とならなかったことが数回、例会・理事会を総会と兼ねる年が数回あったくらいで、この6月の例会・理事会で119回になります。

この例会・理事会はROBA流にアレンジしています。会員参加が基本の例会は毎月開催するのですが、理事会も例会と兼ねて同時開催しています。理事も理事以外の会員も、例会では共通の問題に対し同等の立場で議論しています。なるべく自由な意見を会の運営に取り入れようと考えてのことでそうしています。

しかしながら、最近は総会の出席者、例会・理事会の出席者の顔ぶれが決まっています。また、参加者が徐々に減っています。事業内容も毎年大きな変革もありません。新しい考えで革新的な活動ができれば、もっと輪も広がるのではないだろうか思います。社会的にもNPO法人ROBAに期待（新しい風を期待しているのか？）の声を感じています。これからもROBAの活動に多くの会員の参加をいただき、持続可能な未来につながるNPOであり続けていたいと思います。



26年度定例総会の様子

両備グループ代表兼 CEO 小嶋光信氏講演会「さあ、新しい公共交通の時代を拓こう」



あと 3 年で規制緩和を迎えるというところで「うちもダメになる」と、先進国を分析した。その結果、公共交通を民間に任せているのは日本だけということが分かった。ヨーロッパはクルマが入ってきたときに『公設民営』でなければダメになると考え、公共交通が国の施策として守られた。そこで 14 年前に一人で国に交渉に行ったが「社会主義者のはぐれ鳥か」と言われた。民営鉄道協会の代表は功成り名を遂げた大都市大手の経営者。地方企業はマイノリティであり、一人で出向くより方法がなかったし、協会の関心は補助金の話が中心だった。ただ、交渉するうち国に『公設民営』の話を覚えてくれた人が居て南海貴志川線の時に『公設民営』を検討してくれた。「このままでは全国の鉄道はほとんど残らないから小嶋さんの案に乗ってみよう」と考えてくれた。そして和歌山電鐵ができ、次にこれを使ったのが若桜鉄道と福井鉄道だった。

両備グループの前身は 1910 年（明治 43 年）開通の西大寺鐵道株。地域社会への貢献を目的としていた。両備グループは、運輸・観光関連部門、情報関連部門、生活関連部門からなる。情報関連部門は西日本では草分けで偏差値を開発したのは両備。情報関連部門に 1200 人。これが特徴である。

両備グループの経営理念は『忠恕（ちゅうじょ）』＝真心からの思いやり。社会、お客様、社員への思いやりである。2010 年にトップに就任したのが 100 周年を迎えるタイミング。今までの 100 年は感謝の 100 年。では、これからの 100 年は・・・と考え、『忠恕』と定めた。

創業者松田与三郎の考え方は「社員の首を切るのは禁じて」。これが伏線である。1939 年、国鉄赤穂線開業。競争にならない条件。西大寺鐵道はお客さんがほとんど国鉄に移ったのを見届けて廃止した。社員は 40 人居た。これをそれぞれの適性を考えてグループ会社をたくさん作って配属した。儲かるからやろうと思って作った会社はない。社員の得意を活かして作った。西大寺鐵道は補助金をもらわず経営しそれが全国的に知られていた。そのため、全国から、ノウハウを持った社員が欲しいと求められた。だから余った社員を他社の再生に人材として回せる仕組みができた。

両備グループの行動規範は『知行合一』である。津田永忠が岡山藩を再生した。上杉鷹山よりもっと前の時代であった。陽明学が根本にあった。陽明学は革命の学問であった。徳川時代は朱子学を採った。秩序の学問である。明治維新は日本の端で生き続けた陽明学に影響され成し遂げられた。維新後はまた朱子学へ移行している。

「日本の法制度は間違っている」という想いは、国土交通省に交渉に行き、惨憺たる結果になり、協会では相手にされなかったことで芽生えた。公共交通は乗客が半減し、10 社に 1 社しか黒字企業がない。平成 23 年度は鉄道会社のうち 23 社が黒字、69 社（75%）が赤字。ビジネスモデルになっていな

い。地方の乗り合いバスでは平成 22 年度、赤字 133 社（88%）、黒字 18 社。基本的に収支が合わない事業であり、制度が成り立っていない。それでも「民間がやるものだ」という常識がありこれが悲劇を生んでいる。表には出て来ないが公共交通事業者の社長の自殺が多い。

この 10 年間、公共交通を残す運動を行ってきた。道路を造り続けるのではなく道路を有効利用する公共交通の活用を訴えた。公共交通協議会に利用者の代表が呼ばれるよう訴えた。JC ドゥコーのバスシェルターの普及を岡山から仕掛けた。2004 年の時点で「歩いて楽しいまちづくり（コンパクトシティ）」を打ち出した。2004 年に MOMO を導入した。土地デフレの時代に岡山市中心部にタワーマンションを建て即日完売して見せた。岡山市中心部で学校跡地の再開発を手掛けた。

そして、津エアポートラインを手がけた。中部国際空港を愛知に取られた三重県からのコンサルタント依頼があり、5 航路開設案から津ルートに絞り、『公設民営』の場合だけ可との回答をした。両備に依頼があり大成功した。『公設民営』の実証実験に成功した。公共交通でもこのやり方があると認識した。

和歌山電鐵の事例では、南海電鉄が貴志川線で年間 5 億円の赤字を出していた。『公設民営』は当時の法律ではできなかった。第三セクターは公と民の同床異夢で無理。両備グループでは 8 時間の労働時間内で兼務する態勢を採り、大手の 70%の人員、かつ、70%の賃金、即ち半分の人件費で運営。責任者をバス部門からスカウトし鉄道の常識によるがんじがらめを避けた。駅 500 メートル圏内を歩いて聞き取り調査し問題点と潜在需要を見出した。決め手は「乗って残そう」を実践する市民団体と、この問題に関し一枚岩の県と市。三毛猫たまと出会って素質を見抜いて駅長にしたが、たまちゃん現象が起き、地域・市県の頑張りのシンボルになった。楽しく再生することが重要である。国が『公有民営』を受け入れ、若桜鉄道・福井鉄道の再生に活用された。

既存の法律では補助金行政でダメなら廃止という法律だったが、中国バス再生の過程でこれを地域公共交通活性化再生法により経営インセンティブのある画期的補助金制度の導入に持ち込んだ。黒字化すれば削られるインセンティブのない補助金制度ではコスト削減の意欲がなくなる。

民主党政権発足時、マニフェストに公共交通が全く入っていなかった。民主党とのやり取りの中で、三日月国土交通政策委員長が抜本的な改革 = 交通基本法制定を決めた。

井笠鉄道の破たんでは破綻発表後 19 日で営業停止となった。そこで『公設民託方式』の第一歩として『準公設民営』を提言、井笠市長がこれを受け入れた。

また政権交代が起こり交通基本法案が廃案。1 年後の平成 25 年 11 月に交通政策基本法成立に向けた審議が本格化した。そして成立。

「民間に任せる」から「市民・行政・事業者一体になって計画」へ。地方公共交通の再建スキームは、『公設民営』と『公設民託』の機能を併せ持った『準公設民営』方式が最適である。その中で、補助金制度を有益に変更する必要がある。私がやってきたのは、法律を最後まで創っていくこと。事件が起こりその再生をし、新しい法律が残っていった、一連の物語のようである。

公共交通は、市民が主体になり、行政が受け、良心的な事業者が支えていくべき。地域が元気にならなければ公共交通も長らえない。地域を良くするツールの一つとして公共交通を良くするべき。喫緊の課題は地方を支える産業を創ること。どうやって地域を元気にしていくかを考えなければならない。

福井では福井鉄道の福井駅前広場乗入れを進めており、新型車両も導入された。それを市民が一緒になって支えている。公共交通が無くなると雪崩のごとく地域が悪くなる。それを何とか支えた。今後も、皆さんの熱意を市民のコンセンサスにすること、それが地域を発展させる。熱意を燃やして欲しい。

以上 2014.5.24（要約：清水）

ROBA での 8 年間の活動雑感

鳥居 健

先月 24 日に ROBA の総会と記念講演会が行なわれました。毎年のことながら、総会では開会直前まで委任状の数の確認に追われています。少しでも負担を減らすため、総会の議案書を発送通知するタイミングや方法についても今後見直していく必要があると思います。

このたび清水さんから理事に推薦していただき総会で承認いただきました。私自身、交通事業者や行政との接点がなく対外的な折衝をするスキルもございませんので、理事の肩書きは正直重いと感じていたのですが、今までと同じスタンスで活動していけば良いとのことでしたので、お引き受けすることにしました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

さて、私が ROBA に入会したのは、転勤で福井に来た翌年の 2006 年でした。福井新聞の記事を見て地域公共政策学会のシンポジウムを聴講したのがきっかけです。この時も確か ROBA 総会の後の記念行事だったと思います。その後、福井鉄道の存続運動、地域バス調査、自転車マップの作成、活動助成金の申請等に微力ながら係わることができ、良い経験になりました。

ところで最近の ROBA の活動についてですが、長年の懸念事項だった福井鉄道のヒゲ線延伸、田原町での相互乗り入れ、電停の移設改修に実現の見通しが立ったためか、いささか燃え尽き症候群になっているように感じます。例会や理事会に来るメンバーも以前に比べると減少し固定化してないでしょうか。ただ昨年度に限ってみると、カーフリーデーや路面電車サミット等の行事において、福井鉄道の沿線風景を題材に活躍されている画家（佐々木洋一さん）や、福井県内も含め全国各地でライブ活動されているシンガーソングライター（高橋涼子さん）に協力いただき、新たな人的ネットワークが構築できたのは大きな収穫でした。ROBA の活動を広く知ってもらうためにも、今後このような会員以外の方との連携も重視していければいいと思います。ちなみに、来月 26 日の路面電車サミット in 高岡では、高橋涼子さんがウェルカムステージを務められます。



福井駅東口 AOSSA



えちぜん鉄道大関駅前のカフェ「森のめぐみ」



越前市勾当原地区の古民家「AOIIE」



地域バスは火曜日と土曜日のみ運行

友ちゃんの珠洲特派員報告 第1号

珠洲市に移住！！

今回から、コラムのタイトルが「友ちゃんの金沢特派員報告」から「友ちゃんの珠洲特派員報告」に変更になりました。

じつは、今年の4月に石川県金沢市から石川県珠洲市に移住し、珠洲市でまちづくり関係の仕事をしています。今後は、石川県珠洲市からのいろいろな情報をお届けします！

まずは、石川県珠洲市の基本情報からご紹介します。珠洲市は、能登半島の先端にある人口約1万6千人の市です。石川県金沢市からは自動車ですり片道2時間30分かかります。能登半島には、のと鉄道が走っていますが、一部廃線となっているため（終点：穴水町）珠洲市までは電車で移動することができません。珠洲市までの公共交通としては、奥能登バスが運行する特急バスが金沢市から珠洲市まで運行されています。

今月の人口	
5月31日現在(外国人を含みます。)	
世帯数	6,456世帯
人口	16,083人
男性	7,441人
女性	8,642人



珠洲市では、様々な地域に入って、地域でのまちづくりにやる気のある地元住民の方の支援を行っています。ときには、相談に乗ったり、現地を見に行ったり、一緒に今後の方向性について考えたり、といった仕事をしています。また、空家を借りて一人で住み、お祭りや清掃活動等の地域の行事にも参加しています。次号からは、珠洲市に住んで仕事をしていくなかで見えてきた様々なことを発信していきたいと思っています。お楽しみに



作 / 漆寄 耕次

編集後記・・・編集委員より一言

内田（発行責任者）

「健康診断も終え、また今年1年活動できる肉体は確保できた！問題は1年活動できる精神力だ！」

林(変集長)

「皆さん寝不足ではあーりませんか？」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>